5　研究の構想図

社会の変化

・直接体験の機会の減少
・人間関係の希薄化
・規範意識や倫理観、感情等の変容

将来の人間像

社会とのかかわりの中で、自己を位置付け律しつつ、自ら社会秩序を作り出しながら、よりよく生きていこうとする態度や実践力をもった人間

中央教育審議会

・生きる力の育成
・自ら考え、自ら解決する力
・豊かな人間性
・たくましく生き抜くための体力

第一次答申より

学校教育目標　やさしい子　たくましい子　考える子

本校児童に求められる資質や能力

・向上心
・志をもって生きる力
・行動力
・他を思いやる心

研究主題　「見つめる・感じる・はぐくみ合う」

―人とかかわる活動を広げ、心を育てる教育をめざして―

保護者の願い

・集中力
・道徳心
・たくましさ
・根気強さ

研究仮説

学校を中心とした全教育活動を心を視点として見直し、教育課程の中に心を育てる内容や活動を意図的・計画的に位置付けるとともに、発達段階に応じた人とのかかわらせ方を工夫することによって、互いの心を感じ、共に向上しようとする児童が育成されるであろう。

研究の内容

実践研究

研究の中心

心を育てるために、人とのかかわりを重視した学習を実施する授業時間（【黒門　心の時間】）を設定する。

○意図的・計画的な指導の実践
・年間指導計画の作成
・単元構成の工夫

○教材の開発と指導方法の明確化
・人の心に触れる学習素材の教材化
・体験的な学習（本物体験）等

学校での取り組み

○基本的な生活習慣の確立
・健康な心の土台作り
（挨拶・姿勢・運動・朝食・睡眠等）

○しなやかな心の育成
・思いやり、我慢する心、寛容、協力、配慮
（群れ遊び、異年齢集団活動等）

家庭・地域での取り組み

○科学的な研究を基にした取り組み
・前頭前野の活性化
（黒門スキルタイム・鑑賞・料理作り・家族との会話等）

基礎研究

○全教育活動を見直し、心を育てることに有効な取り組みを明確にする。
○学習指導要領を分析し、人とのかかわりに関連する教科を明らかにする。
○「上野の森」や各施設の活用について分析する。